



# 松ぼっくり

- P.1 巻頭文 日本大学 島田正文  
P.2~3 松が岡4・5丁目地域の「鵜沼住み心地アンケート調査結果」の概要  
P.4 コラム：生き物の棲みかとしての緑 ビオトープ《第1回》  
鵜沼景観まちづくり会活動の紹介  
松が岡5丁目緑地(通称里山)清掃・保全ボランティア活動の紹介

## 自然の潤いや歴史・文化性が漲るまちづくりへの期待

日本大学 島田正文

先日、ある都市の小学生を対象とした「夢のまちづくり」ワークショップの一環で「大人になったらこんなまちに住みたい」というテーマで絵を描いてもらった。その作品には、「自然や緑が豊かなまち」が多く、「安全なまち、高齢者に優しいまち」など、現代を反映したものが続いた。中には「建築物の高層税徴収により緑が豊かなまち」、宇宙を対象とした「星のまち」などの発想による作品などもあり、参加者一同、大変刺激となった。

こうした例をあげるまでもなく、緑豊かで個性や潤いのある生活環境の整備は、子供ならずとも誰しもが望み、期待する姿であろう。また、緑に関連した生活環境の整備にあたっての方策は様々であろうが、都市の現状をみると、平面的に大規模な緑を導入することは容易ではなく、鵜沼のような高木や高木を含む樹林地の保全や育成は、その立体的特性をもって、良好な市街地景観の醸成に貢献できる有効な方策であるといえる。幸いにもクロマツの高木やそれを含む樹林地に代表される鵜沼の緑は、周知のような歴史的背景をともなって、現在の風格ある景観醸成にあたっての一大要素として存在してきており、当地における環境財としての付加価値を有しているものと推察される。これは、かつてより、自然や地形条件などと調和し、住まい続けてきた住民の意志と様々な努力の現れであり、鵜沼に息づく文化であるものと解せる。

その一方で、近年の宅地の細分化等は、残念ながらそれらを徐々に滅失させており、次世代への継承さえも危うくしてきている。このような状況を回避するためには、住民、行政、事業者などの様々な関係者による積極的な英知を生み出す地域社会の形成が必要不可欠であろうし、その結果、鵜沼の豊かさが持続的に表現され、自然の潤いや歴史・文化性が漲るまちづくりへ展開されるものと期待される。

「鵜沼の里山便り」より

著者プロフィール

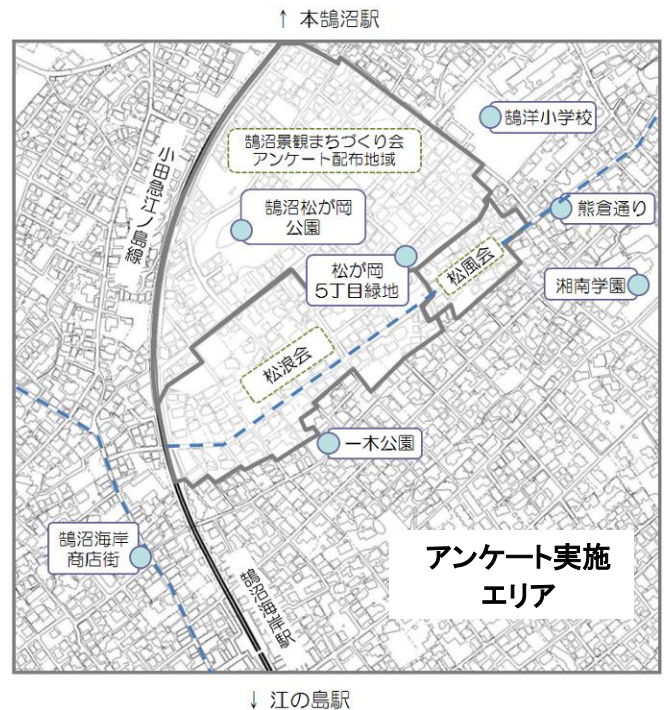
日本大学教授 博士(農学)、技術士(建設部門)、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。  
専門は緑地保全計画、景観計画、公園レクリエーション計画・デザイン。  
(社)日本造園学会副会長、江東区都市景観審議会会長、藤沢市みどり保全審議会委員等

## 松が岡4・5丁目地域の「鵠沼の住み心地アンケート調査結果」の概要

「鵠沼景観まちづくり会」では、鵠沼の景観や住環境の良さを守るために少しでも役立てるよう行動していきたいと思い、本年1月、松が岡5丁目地域に「景観・防災・防犯・生活」の4つのテーマについて尋ねる「鵠沼の住み心地アンケート」を実施しました。

松が岡の松風会と松浪会でも、2007年8月～10月にかけて同じ内容のアンケートを実施しております。今回は両自治会の協力を得て、3地区合同のアンケート結果の概要をお伝えいたします。

※ 尚、アンケートの形式は松が岡1～3丁目のニコニコ自治会まちづくりチームが作成したものを教えていただき参考にし、調査分析は、慶応大学の助手の高橋武俊さんの協力を得て行いました。



### 《「松風会」の住み心地への関心の高い項目》

- |                             |      |
|-----------------------------|------|
| 1位: 「自然災害や火災に対して不安を感じる」     | (防災) |
| 2位: 「医療福祉の施設や情報が充実している」     | (生活) |
| 3位: 「景観に関するルールを検討した方がよい」    | (景観) |
| 4位: 「5年後、10年後のまちなみに不安を感じる」  | (景観) |
| 5位: 「最近、空巣等の犯罪被害をよく聞く様になった」 | (防犯) |

実施時期 : 2007.8  
 配布件数 : 44件  
 回収件数 : 42件  
 回答率 : 95.5%

### 《「松浪会」の住み心地への関心の高い項目》

- |                            |      |
|----------------------------|------|
| 1位: 「5年後、10年後のまちなみに不安を感じる」 | (景観) |
| 2位: 「自然災害や火災に対して不安を感じる」    | (防災) |
| 3位: 「景観に関するルールを検討した方がよい」   | (景観) |
| 4位: 「医療福祉の施設や情報が充実している」    | (生活) |
| 5位: 「地域として防犯対策をした方がよい」     | (防犯) |

実施時期 : 2007.10  
 配布件数 : 128件  
 回収件数 : 95件  
 回答率 : 74.2%

### 《「松が岡5丁目」の住み心地への関心の高い項目》

- |                            |      |
|----------------------------|------|
| 1位: 「5年後、10年後のまちなみに不安を感じる」 | (景観) |
| 2位: 「空き巣や犯罪被害に対して不安を感じる」   | (防犯) |
| 3位: 「景観に関するルールを検討した方がよい」   | (景観) |
| 4位: 「医療福祉の施設や情報が充実している」    | (生活) |
| 5位: 「自然災害や火災に対して不安を感じる」    | (防災) |

実施時期 : 2009.1  
 配布件数 : 281件  
 回収件数 : 107件  
 回答率 : 38.1%

※ 鵠沼景観まちづくり会として実施

☆「景観」「防犯」「防災」「生活」について、具体的な問題点やそれを解決するためのご提案やご意見など実に多様なアイデアが寄せられました。

### (景観)

- ・住み替えで整地される時、前のお宅が大事に育てたお庭の木をそのまま活かす事はできませんか？根こそぎ無くなるのはとても悲しいし、せっかくの古木を次に住む方が引き上げば、鶴沼の風情も保たれてゆくとと思います。
- ・地元の私達は良いのですが、他所から来た人は風致地区の故もあり、一步、住宅街の中に入ると目印も余りなく、迷路に踏み込んだ様に感じると云う声を良く聞きます。しゃれた案内板を要所に設置したら良いと思います。
- ・電柱・ケーブルの地中化は景観の向上と同時に防災にも貢献すると思う。路面を雨水浸透性(ポーラス)アスファルトにする。
- ・鶴沼らしい住みやすさや景観を守るために、建築基準法や条例の中に含まれない部分を、鶴沼独自の皆が納得できるルールづくりについて考えてゆきたいです。

### (生活)

- ・子供達が安全に伸び伸びと外で遊べる環境をもっと増やしてほしい。
- ・この頃、道にゴミや空き缶など、又、犬のフンなどが多く落ちていてがっかりする。きれいにしても、また落ちている。
- ・松が岡公園の出入り口に立つたくさんの「犬を放すことは・・・」の看板に住民のモラルの低下に恥ずかしい思いが。看板で効果がなければ、次の手だてを考えてほしいと思います。

### (松が岡の地名から連想される光景や好きな風景)

- ・石垣と生け垣、松の大木。
- ・季節を問わず閑静な住宅の中をぬって走る小路
- ・松が岡公園、一木公園等 松の多い風景。汐の香りが感ぜられます。
- ・松を通る風のざわめきがすきです。
- ・夕日がまぶしい住宅地の路地に安らぎを感じます。
- ・子供がニコニコわらって行きかう道 とても好きです。

※ 紙面の都合上、ご提案やご意見の一部についての掲載とさせて頂きました。

### (防犯・防災)

- ・防犯についてはパトロールを強化できれば良いと思いますが・・・
- ・防犯・防災の事を考えますと、せめて回覧板の回る範囲だけでもご近所が分かりあうような町に。
- ・外灯をふやすか、又は家並みの所では各家庭の外灯をなるべくつけておいてほしい。
- ・防犯・防災について、家庭で出来ることは知識を持って行えばすぐ出来ますが、地域での実行となると、時間も住民の関心等々も含め、大変であり、難しい問題となりそうですが実行できれば素晴らしいと思います。

### (全般的なご意見)

- ・街の景観や防災もさることながら、住民も心にもゆとりがあればと思います。少々事はゆずりあって「お互い様」の気持ちが薄くなっているのは寂しいと感じられることがあります。新しさを受け入れ共存する視野も必要では・・・
- ・緑豊かでのびのびとした佇まいの別荘地の 50 余年前とは社会的に環境状態等時代の流れが変わり、良くも悪くも現状が良い方向に保たれることを望みます。将来ある子供達の為に平和で情操教育に相応しい場として発展、自然の大切さを解る人が多く出るよう日々の生活の積重ねとなる郷土であってと次ぎの代の方々に願います。

「このアンケートのお陰で家族の、鶴沼についての思いを、初めて話し合う事が出来ました」とのご意見も頂きました。

鶴沼景観まちづくり会では、新しいまちづくりの工夫や話題にしたくなるような情報を提供し、まちの景観や住環境について具体的に考えていくきっかけを作っていきたいと思っています。今後ともご協力よろしくお願ひ申し上げます。



～松の高木をもつ家並、小田急踏切の近くで～

## コラム:生き物の棲みかとしての緑 ビオトープ 《第1回》

### 【スズメ 国内生息数、半世紀前の1割に 全国調査で判明】



「国内のスズメの生息数が1800万羽にとどまること、立教大理学部の三上修・特別研究員の調査で分かった。餌場の田畑と、巣を作る木造家屋の減少などにより、個体数は90年以降80～50%程度減り、60年ごろとの比較では10分の1になった可能性もあると結論付けた」

09年2月3日、このような記事が毎日新聞から配信されました。自然環境系NPOである(財)日本生態系協会でも1年以上前から同様の報告がされています。実際に朝スズメを探してみると自宅から最寄駅までの2kmの間に僅かに2, 3羽程度しか姿を見ることができず、子供のころは至る所にいたはずのスズメが確かに激減している印象を受けます。99年2月には環境庁(当時)による「絶滅危惧種」に「メダカ」が指定されるなど、一昔前には身近にいた生き物が今、私たちの気付かないうちに絶滅の危機に瀕しています。以前は私たちの生活空間と「野生生物の生息空間」が私たちの生活様式の変化により激減しているのです。

さて「ビオトープ」という言葉をご存知でしょうか？

これは「野生生物の生息空間」を表すドイツ語でBIOは生物、TOPは場所を意味しているのですが、今、私たちの生活空間に再びビオトープを共存させようという取り組みが各所で始まっています。例えば現在小中学校の10%～30%程度では既に校庭の一角に緑地や池を作り「ビオトープの創出」が行われています。小さなものでも其々を緑の小道でつなげる事で大きな「ビオトープネットワーク」として質を高めることも出来ます。また同じ緑でも見た目の美しさを重視する園芸系・観葉系植物でなく、その土地に元々あった植物を植えその地域固有の生物がより多く生息している程ビオトープ的には質が高い「緑」となります。個人でも自宅の庭、ベランダ、隣接する空き地でビオトープの保全・創出をする事例が増えて来ました。これも一種のボランティア、個人で出来る「公共事業」と言えるのではないのでしょうか。

ビオトープ管理士 風間哲郎

### ビオトープ

小鳥がつなぐ

まちとまち (正)



### 【鵜沼景観まちづくり会活動の紹介】

2008年4月より、鵜沼の景観や住環境をより良くしていくために「風致地区の現状」「ニコニコ自治会の住民協定締結への取り組み」「住環境を守るためのまちづくりの制度」「自ら実践するビオトープ」「鵜沼の住み心地アンケート調査の方法」「藤沢市開発指導要綱の条例化」等の勉強会を行ってきました。

今後、近隣の自治会や藤沢市景観まちづくり課と連携して、身近な地域のまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

月例会は、毎月第4土曜日 10時～12時、鵜沼公民館で開催しています。お気軽にご参加下さい。

【毎月第2土曜日9時～11時に松が岡5丁目緑地(通称里山)で清掃・保全ボランティア活動をしています】



ゴミを拾い、道路に散った落ち葉を集めて緑地に穴を掘り埋めました。松や大木にからまった蔓(つる)は取り除き、切った蔓や小枝を集めて土留めを作りました。増えすぎた竹は少し残して切り、その竹を柵にして縄を張り遊歩道に巡らせました。持ち込まない、持ち出さないを基本モットーにして自然の循環活動のお手伝いをしています。

ご参加下さい。お子様連れも大歓迎。



藤沢市認定都市景観市民団体

鵜沼景観まちづくり会

(連絡先) 090-9139-6598

E-mail: [kugenuma.keikan.machizukuri@gmail.com](mailto:kugenuma.keikan.machizukuri@gmail.com)